

## ロワール河の城めぐりとユートピア思想

### —地上の幸福を求めて—

豊かな水量を保ち 1,012Km というフランスで最も長い河川・・・ロワール河。  
その流域一帯は《フランスの庭》と称賛され、小高い丘や小川のほとり・森の中に見える美しい優雅な古城の景観。さあ、ロワール河の素晴らしい古城めぐりに出かけましょう!!

#### I. ロワール河の城



- 15～16世紀ルネサンス時代に建造・修復されたロワール河流域の3000近い数の城。首都はパリであるが手狭で悪環境の為、国王はトゥーレーヌ地方の居住を好む。ルネサンス時代の特徴・・・文化的先進国イタリアから芸術・文化・生活様式、芸術家・職人等人材を迎え入れる（レオナルド・ダ・ヴィンチ）

○3000近くの城

3種に分類：①王家の城。②歴史的・建築学的に重要な貴族の城。③その他の貴族の城  
建築の特徴：石灰岩・レンガで建築

○ロワール河流域の城・「フランスの庭」 城館（ルネサンス）・平地。装飾的。庭園。  
地上の楽園としての城館。平和の証。城館 + 庭園（幾何学的なルネサンス式庭園）

※比較：中世、ライン河流域の城＝城塞）・敵の攻撃を守るための建築物→丘・高台に  
建築。窓は小さい。庭はない。

◆ロワール流域の主要な城

**2. シャンボール城**

フランソワ 1 世によるルネサンス建築の傑作→アンリ 2 世により継続

ロワール河流域最大の城。

《ダ・ビンチの構想》

この世の生活を楽しくする・・・古代ローマ建築の理想→数学的・幾何学的規則性。

円形の塔。二重の螺旋階段。装飾・彫刻の重視。

但し、居住性に優れていない→大きな窓、高い天井は暖房が効きにくい



○ブロワ城

王家が住むための城。3つの建築様式で作られている。

ギーズ公の暗殺

○アンボワーズ城・・・ダ・ヴィンチを招聘（クロ・リュッセ城館）

**3. シュノンソー城**

水上（シェール川）に建つ、橋館（長さ 60m の回廊→ベルサイユ宮殿、鏡の間のモデル）。

女性らしい美しい城。



シュノンソー城



王妃カトリーヌ・ド・メディシス



ディアーヌ・ド・ポアチエ

### 【6人の奥方の城】・・

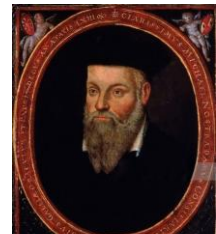
- カトリーヌ・ド・メディシス（アンリ2世の王妃。国王と同年齢）  
ディアヌ・ド・ボワチエ（国王の愛妾。20歳年長。絶世の美女）
- ショーモン城・・アンリ2世の王妃と愛妾の確執の城
  - アゼ・ル・リドー城・・「アンドル川の宝石」バルザック
  - シノン城・・シャルル7世とジャンヌダルク謁見の舞台
  - ユッセ城・・「眠れる森の美女」の舞台

### 4. ラファイエット夫人『クレヴの奥方』

アンリ2世の宮廷が舞台・・栄華とギヤラントリーの時代  
アンリ2世の宮廷には美男美女が集まっていた

#### ◆ノストラダムスの予言

- 1530年からカトリーヌ王妃はショーモン城に住み、占いにふける  
アンリ2世の不慮の死の予言→1559年、死去  
ディアヌの死去  
アンリ2世の3人の息子の不幸な死を予言  
→ヴァロワ王朝の断絶ブルボン王朝のアンリ4世に移行



ノストラダムス

### 5. ユートピア思想

ルネサンス時代におけるユートピア思想の興隆

- 現実の社会に対する風刺
- ロワール河の城館建築→地上の幸福を求めて・・生きている間に幸せにならねば。  
そのためには社会が変わらねば。
- ※ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』

○地上の楽園・・ルネサンス時代の夢

#### ◆第2の書『パンタグリユエルにおける「ユートピア」

- 「ユートピア」はトマス・モア（英国の思想家）の造語。新世界をユートピアとみなす
  - 「どこにもない国」または「良い国」
  - ユートピアの場所・・海に囲まれた島
- 近代的精神のマニフェスト：中世的な絶対主義からの解放と自由の宣言

※ユートピアの特徴・・理性と信仰の調和をめざす社会

- 私有財産がない→金持ちの搾取がない→共産的な社会機構
- 罪人が奴隷となる。
- 信仰の自由→寛容
- 平和を愛する



フランソワ・ラブレール

#### ◆ラブレール『ガルガンチュア』におけるユートピア

○テレーム修道院。修道僧への論功行賞

○テレーム=なんじ欲することをなせ 地上の楽園・ルネサンス時代の夢

- ① テレーム修道院の生活規則・自らの意向・自由意志による→良い気質=品性
  - ② 場所・ロワール河畔の土地。実在の場所。身近な場所。
  - ③ 壁をめぐらさない。美男美女しか入れない。結婚の自由。財産の保有。自由な暮らし
- ※一般の修道院のモットー：貞淑。清貧。服従



カルガンチュアの幼年時代  
(ドレの挿絵)

◆トマス・モア



トマス・モアのユートピア国

◆テレーム修道院の建物

- 6の原理・6角形。6つの塔。6つの言葉。
- らせん階段・6人の兵士が横一列に並び屋上まで上がる
- ※6は完全数、天地創造は6日間でなされた（聖書）
- ※数学的原理に基づく調和
- 「快樂の庭園。エキゾチックなものが重宝される。



テレーム修道院の復元図（1840）

天上の幸福（死後幸せになりましょう）から  
地上の幸福（生きているこの世で幸せになりましょう）へ！

ロワール河流域に数ある古城の中で一番魅了されるのは、シュノンソー城です。  
優雅で気品が高く、さすが「6人の女の城」と呼ばれる由縁が理解できます。8年前に訪れましたが、今回受講してより深い知識を持って再度訪れたいと思います!!

記事：桐澤 久子